

## 発刊にあたって

昨今の県内の経済情勢を見ると、消費が比較的堅調に推移するなかで、生産は振れを伴いながらも緩やかに増加し、雇用面においては有効求人倍率が高水準を保つなど、全体としては緩やかに持ち直しています。しかし、国内経済に目を転じると、緩やかな回復が続いているものの、米中間の通商問題などに起因する世界経済の減速から輸出や生産に弱めの動きがあるなど、国内外の経済の動向や金融資本市場の変動には一層の留意が必要と考えています。

ところで、「徳島県の経済と産業(2019年版)」は、自然環境や社会環境、経済・産業の構造や特色、県民の暮らしなども含めて、最新のデータを織り込み、近年の徳島県の実情と変化を取りまとめたものです。徳島県の現状や特徴・特色を概観し、今後の地域や企業経営を展望するうえで参考書として、活用していただければ幸いです。

なお、今回の表紙は、サーフィンです。県南の海は日本有数のサーフスポットとして知られており、藍で染めたり、木頭杉を使ったサーフボードなども話題に上っています。また、2020年東京オリンピックでサーフィンが追加種目として採用されており、徳島県関係者の活躍も期待して、デザインしました。

最後に、この冊子の作成にあたり、何かとご協力を賜りました関係機関の皆様に、心から厚くお礼申し上げます。

2019年 夏

公益財団法人 徳島経済研究所

理事長 西宮 映二